

エゾリス

Sciurus vulgaris orientis

リス科

名前の由来

北海道に生息するリスであることから。リスは栗鼠の音読み「りっそ」から転訛したもの。漢字名：蝦夷栗鼠

形態的特徴

頭胴長22～27cm、尾長16～20cm、体重300～410g。夏毛は茶褐色で腹は白色。冬毛は灰褐色で腹は白。類似種：なし。

生息環境・分布

平地の樹林から亜高山帯の森林に広く分布。冬眠はしない。国内では、北海道に分布。北海道内では、全域に分布。十勝地方では、平地の樹林から亜高山帯の森林に生息する。防風林や市街地の防火林などの樹林でも見ることが多い。

※ 亜種：同じ種が地理的に隔離され、独自の分化をとげ、形態的に違いがあるもの

食性・他生物との関わり

主に植物食で種子、果実、キノコなどのほか昆虫も食べる。天敵はテン、タカ・フクロウ類、ネコなど。

繁殖生態・寿命

交尾は2～6月、38～39日の妊娠。4～7月に1～2回出産し、1回に1～7子を産む。約1年で成熟。

飼育下では16年生きた記録があるが、野外では1才まで生きるものは4分の1程度。3年以上生きるものは少ない。

興味深い話

■十勝では町中の小規模な樹林や防風林などにも比較的ふつうに見られる。秋にクルミやマツの種子などを貯食するが、冬眠はしない。

■巣は樹上に枝などを組み合わせて作る場合と樹洞を使用する場合がある。

■エゾリスはキタリスの亜種。キタリスはヨーロッパ、旧ソ連、中国東北部、朝鮮半島などに分布する。

■秋にせっかく貯蔵したクルミやマツの種子類だが、色々



エゾリス（左右とも）。円内は樹洞の巣のエゾリス



エゾリスによるクルミの食べあと



エゾリスの足跡 前足の前に後ろ足のあと

なところに分散して貯めるので、そのうちのいくつかは忘れ去られてしまう。これらのリスに植えられた種子類が発芽して成長する事で、林が広がっていく。

■リスは非常に上手にクルミを割る。アカネズミ類ではクルミに穴を開ける様にかじるが、エゾリスはクルミの合わせ目に沿って、きれいに真っ二つにする。食べ跡をみれば、エゾリスが食べたのか、アカネズミが食べたのか解る。

■十勝地方のアイヌ語では「ニウエオ」という。

配慮事項

樹林と道路が隣接した場所では交通事故死が発生している。孤立した樹林や防風林をつながっていることで、正常な繁殖や分散が可能になる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
出現期	[Green bar]												
交尾期		[Red bar]											
出産期				[Red bar]									

参考文献

「日本の哺乳類」阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 東海大学出版会 1994
「北海道 森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編 北海道新聞社 1997
「日本動物大百科1 哺乳類I」日高敏隆 監修 平凡社 1996

「フィールドガイド 足跡図鑑」子安和弘 日経サイエンス社 1993

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館(編)、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

魚類
底生動物
両生類
爬虫類
トンボ
チョウ
樹木
(在来種) 草花
(外来種) 草花
哺乳類
(水辺) 鳥類
(草原・樹林) 鳥類